

安曇野日和



連載コラム 院長室だより 病院長 桑村 智



作業療法では患者さん達がよく映画を見ていますね。ハリウッドのアクション映画やファンタジー、アニメ映画とか。時々、山田洋二監督の寅さんを上映しているみたいで、渥美清さん独特の語り口で「おいちゃん、それを言っちゃあおしまいよ・・・」と諭しています。何となく心にジワッと沁みってくる場面ですね。

今の世の中はどうでしょう。有名人が何か失敗をするとハチの巣をつついたみたいに大騒ぎをしている。もちろん昭和の時代にもそういったことでテレビ局に電話が殺到なんてことはありました。でもしばらくすると潮が引くように騒ぎが収まるのが普通だった気がします。

今はSNSの時代になって誰もが世間に自分の意見を訴えることができるようになりました。それは良いとしても、他人の発言に自分の意見を張り付けていくという仕組みが個人の意見を無限に連鎖させていく構図を生み出しているように感じます。

世に知れた人が何かしら「やらかす」とSNSで集中攻撃となり、弁解を発信しようものなら、それこそ騒ぎは大きくなる。そしてネット上に記された記事はどんな形であれ消えることはないという事実。一人一人は自分の意見を述べているだけ、となりますが寄って集っての行為はもはや弱い者いじめに他ならないでしょう。結果として多くの有名人が事実上、再起不能に陥っていますね。

そんな現代の様子を、空の上から寅さんが「それを言っちゃあおしまいよ・・・」と嘆いているに違いありません。

表紙写真 写真タイトル : 「雪解けのオオイヌノフグリ」

撮影者：樋口 孝

3月になって大雪に見舞われ、雪に覆われた小倉ホームの庭が雪解けになったところを見つけ撮影しました。冬が終わり、春の訪れを感じます。

楽団を招きクリスマスコンサート

12月14日(土)は昨年に続き、松本市民吹奏楽団の皆さんをお招きしてクリスマスコンサートが開催されました。

当日の会場内には、各病棟の患者さんで協力し数カ月かけて作成して頂いたタペストリーや、多くの患者さんに塗って頂いた塗り絵を模造紙に貼って作られたツリーの絵などが飾られており、会場全体がとても賑やかな雰囲気になっていました。

コンサートでは、赤鼻のトナカイ、恋人はサンタクロースなどのクリスマスソングや、マツケンサンバⅡ、見上げてごらん夜の星をなど患者さんにもなじみのある曲を演奏して頂きました。患者さんは楽器演奏に合わせて歌を口ずさんだり、手拍子を叩いたり全身でリズムをとりながら、迫力のある演奏を楽しまれている様子でした。終演後には「楽しかった」「知っている曲がいっぱいあった」などの感想が聞かれ、日常生活ではなかなかできない良い体験をして頂けたのではないかと思います。

コンサート後、各病棟ではクリスマスにちなんだかわいらしいパッケージのデザートが提供され、患者さんからは「美味しかった」などの感想が聞かれました。



♪ 松本市民吹奏楽団 ♪



夜間を想定した避難訓練を行いました

『訓練！訓練！火災報知器が感知しました。近くの職員は感知場所の確認をお願いします！』

—非常ベルの音とともに、緊急放送が流れます。消火器を手に、職員は火元に走ります。火元ではすぐに避難誘導が開始され、それと同時に駆け付けた職員が初期消火と状況報告を行います。状況報告を受けて火元以外でも避難誘導が始まり。すべての患者さん、職員の安全な場所への移動が確認できたのはベルが鳴ってから15分後でした。

1月22日（水）に、夜間を想定した避難訓練が行われました。消防法により、病院では年に2回以上の避難訓練が義務付けられています。当院では昼想定、夜間想定でそれぞれ訓練を行っています。夜間は職員数が限られているため、昼間よりも効率的な行動が求められます。今回の訓練では、消火行動の開始タイミングと状況報告のタイミングが確かめられました。有事の際安全第一に避難ができるよう、訓練を重ねています。



精神科病院協会主催職員研修会

3月7日（土）、長野県精神科病院協会職員研修会が開催され、当院からも12名が参加しました。

午前の部では研究発表が行われ、当院からも看護師が発表をしています。各病院の研究を概観すると、居住環境・認知症のケア・自閉症・身体拘束・排便コントロール・作業療法・児童思春期・退院支援・デイケアなど多岐にわたっていました。いずれの発表も現場の参考になるものであり、有益な学びの時間となりました。

午後の部では、信州大学の関島教授により、『アルツハイマー病の最新治療』と題して特別講演が行われました。現在の治療としての薬物療法はアルツハイマー病による機能の低下を遅らせることが主眼になっていますが、新しい薬物はアルツハイマー病の原因物質を取り除くことを主眼に開発が行われているようです。もちろん副作用もあり、使用する対象は慎重に選ばれるものの、これにより、将来的には認知症の発症を遅らせるだけでなく、予防する効果が期待できるとのことでした。高齢化が進む日本ですが、健康寿命が延びることは個人の自立を維持し、周囲の負担を減らします。より良い薬物が開発され、多くの人の手が届きやすいものになればと期待されます。

第58回
長野県精神科病院協会
職員研修会



病院の理念

慢性期の患者さま一人一人の病状・置かれている状況を個別的に考え人格を尊重し、全職員が職種を超えてチームを組んで一体的に治療目標が達成できるように最良のサービスを提供する。

病院の基本方針

1. 地域への貢献
2. 医療安全・サービスの質の向上
3. 職場の環境づくり
4. 医療介護福祉の連携
5. 経営の健全化

精神科療養病棟200床

患者さまの権利

患者さまは、人間として尊重され差別されることなく、公平で良質な医療を受ける権利があります。そのため私達は治療を始める際には、診療についての情報をご本人に説明しご理解いただいた上で患者さまのプライバシーを守り、意思を尊重し継続性のある医療を提供します。

〒399-8103
長野県安曇野市三郷小倉6086-2
TEL 0263-76-5500(代) FAX 0263-76-5501

社会医療法人 城西医療財団
ミサトピア小倉病院

城西医療財団HP www.shironishi.or.jp

編集後記 安曇野日和45号をお届けします。認知症の話が出ましたが、特に記憶障害を持つ方は、日常の連続性が失われ、常に準備の無い場面に立たされるがごとくの恐怖が付きまとうそうです。そうした相手の状況を理解し、安心していただける関係を作り孤立を防ぐこと、実力を発揮できる環境を提供すること、理屈による説得よりも感情を共有すること、が非薬物的な治療となるそうです。認知症のリスクには、高血圧や運動不足といった生活習慣に基づくものの他、孤立、難聴や視力障害もあるそうです。脳に刺激を、良く人と関わり良く動くことが予防となるそうです。